



秋田音頭

秋田に住む元地遊人等の手で復活



秋田音頭保存会『秋田おばこ踊り』

秋田県を流れる雄物川などの氾濫により、明治末期に故郷秋田県を追われるようにして未開の地上クンネツ（現秋田）へ足を踏み入れた一行の前途は、冷害、食糧難、寒気、資金難により心が沈んでいました。心のよりどころとして氏神がまつられ、ここで故郷をしのんで「ヤートセー！コラ秋田音頭です・・・」で始まる面白い文句で綴った秋田音頭が、人々の心に火を灯しました。以来祭りなどの行事には必ず秋田音頭を踊り、故郷秋田をしのび、そしてともに開拓の労をねぎらいあつ習慣が昭和の初期まで続き、戦後も復活しました。

その後歳月の流れとともに、伝承者の減少が目立ち、伝承の火を消さないため、昭和48年に秋田音頭保存会（初代会長小川静）が結成されました。二世を中心に約30人の会員が練習を積み、約10年敬老会、盆踊り、秋祭り、チャリティーショー、町民文化祭等で発表が行われてきました。その後秋田音頭の担い手は子どもたちに受け継がれましたが、中学生は中学校にバス通学となるため、伝承は小学生に限られ、練習日の輸送問題等もあって同61年3月で会を解散しました。郷土芸能の伝

承を絶たないことを願って、小学校学芸会等で発表の場が設けられていましたが、風前の灯となっていました。

平成17年に秋田に定着した元地遊人らも手伝って秋田音頭愛好会として復活をとげ、長寿を祝う会や町民文化祭等において、若い踊り手とともに、昔若い頃習い覚えた地域の人も一緒に、白い手拭を被り、カスリの着物に赤い腰巻姿で手つきよく披露しています。

（参照『置戸町史上巻』、『置戸町史下巻』、『続置戸町史』※文中人名敬称略）



秋田音頭愛好会『おこさ節』

松田夏男氏旭日双光章を受章



叙勲で旭日双光章を受章した松田夏男氏に9月17日、内閣総理大臣に代わり町長から伝達が行われました。

昭和46年4月に住民の衆望を得て町議会議員に当選後、平成11年4月まで7期28年にわたり住民福祉の向上と地域産業の振興に尽力され、昭和54年5月からの4年間は、副議長として常に全町的な視野

に立って物事を判断し、公正かつ厳正な議会運営に努められ町政の振興、発展に大きく貢献されました。

また、町表彰審議会委員、置戸町猟友会会長、勝山地区連合会長、勝山寿クラブ会長などを長きにわたって歴任し、町内で幅広く活躍されています。置戸町勝山第一在住。88歳。